

- 問1 743年に出され、開墾した土地を永久に私有することを認めることで、土地の私有化を広めた法律を何という？
- 問2 奈良時代、政府による統制が強まる中で、民衆の間を巡り歩いて深く信仰を集めた宗教を何という？
- 問3 元明天皇が藤原京から都を移し、奈良時代が始まった年号は何という？
- 問4 防人として徴兵された農民たちは、主に日本のどの地方から選ばれていましたか？
- 問5 聖武天皇が鎮護国家の象徴として建立を命じた、奈良にある寺院を何という？
- 問6 奈良時代、仏教の力によって国を災いから守ろうとする思想を何という？
- 問7 令制国に派遣され、徴税や裁判といった地方の行政を担った官吏を何という？
- 問8 奈良時代末期に編纂された、現存する日本最古の歌集を何という？
- 問9 701年に制定され、天皇を中心とした中央集権的な政治体制を整える基礎となった律令を何という？
- 問10 人口増加により不足し、開墾のきっかけとなった、政府が農民に与えた土地を何という？
- 問11 710年に唐の都である長安をモデルにして建設された、奈良の都を何という？
- 問12 正倉院にゆかりの品々がおさめられている、奈良時代の天皇は誰？
- 問13 奈良時代に、中国の制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？
- 問14 戸籍に基づいて6歳以上のすべての人々に田地を分け与え、そのかわりに税を徴収する制度を何という？
- 問15 律令制下で、九州北部の守備を担当した兵士の任務を何という？
- 問16 郡司が指揮下に入っていた、中央から派遣された地方長官のことを何という？
- 問17 713年、国ごとに地理や産物などをまとめるように命じた天皇は誰？
- 問18 奈良時代、墾田永年私財法をきっかけに貴族や寺院が広大な土地を所有するようになった結果生まれた、私有地のことを何という？
- 問19 正倉院で見られる、三角材を組み上げて湿気を防ぐ建築様式を何という？
- 問20 行基が協力したことで知られる、聖武天皇が国家の安泰を願って奈良に造営した巨大な仏像を何という？
- 問21 奈良時代の班田収授法において、政府が戸籍に基づき土地（口分田）を分け与える対象となったのは何歳以上の男女？
- 問22 郡司が行政に携わった、大宝律令などに基づく国家体制を何という？
- 問23 律令国家の統治体系として、中央から地方の国に派遣された役人を何という？

## 答え合わせ・解説

|     |               |                                                                                                                                                 |
|-----|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え<br>墾田永年私財法 | 政府は、743年に「墾田永年私財法」を制定しました。これにより、新しく開墾した土地の私有が永久に認められるようになりました。それまで制限されていた土地所有が可能となったため、人々は競って開墾を行い、生産性を高めようとしてしました。                             |
| 問2  | 答え<br>仏教      | 当時の仏教は、国家の公的な儀式のみならず、次第に一般民衆の生活や心にも浸透していきました。行基などの僧侶が、禁じられていた私的な布教活動を行い、民衆を救済するために活動したことで、広い層に広まりました。                                           |
| 問3  | 答え<br>710年    | 710年、元明天皇は藤原京から平城京へ都を移しました。平城京は、大陸の都にならった碁盤の目状の区画（条坊制）を持ち、宮殿を中心に政治機能が集約された都市です。これにより、天皇を中心とした国家の威信を内外に示すとともに、官僚機構による効率的な統治が可能となりました。            |
| 問4  | 答え<br>東国      | 当時の東国は馬の飼育や弓の技術に長けた者が多く、軍事的な実力が高く評価されていました。しかし、九州の防衛任務は3年という長期に及ぶ厳しいもので、遠く離れた地への赴任は農民たちに大きな負担を強いました。家族と別れ、命の保証もない任務に向かう彼らの苦悩は深く、多くの切ない歌が詠まれました。 |
| 問5  | 答え<br>東大寺     | 東大寺は、743年の大仏造立の詔により、聖武天皇が中心となって建立されました。この寺は全国の国分寺の総本山としての役割を担い、鎮護国家の象徴として位置づけられました。完成した大仏は、当時の人々の信仰心を集め、国家統一の精神的な拠り所となりました。                     |
| 問6  | 答え<br>鎮護国家    | 鎮護国家とは、仏教の加護によって国を安定させ、平和を守ろうとする思想です。聖武天皇は、この思想を国家運営の柱とし、東大寺に巨大な大仏を造立しました。また、あわせて全国に国分寺や国分尼寺を建立させるなど、仏教による統治を強めました。                             |
| 問7  | 答え<br>国司      | 国司は、国府を拠点として、租庸調の徴収や公共事業、裁判など地方における行政実務を一手に担いました。これにより、中央政府の命令が地方のすみずみまで行き届く仕組みが完成しました。                                                         |
| 問8  | 答え<br>万葉集     | 万葉集は、奈良時代末期に大伴家持らによってまとめられたと言われる、日本最古の和歌集です。約4500首もの歌が収められており、天皇や貴族だけでなく、防人や農民といった庶民の歌も含まれているのが大きな特徴です。当時の人々の生活感情や社会の様子を知るための貴重な歴史資料となっています。    |
| 問9  | 答え<br>大宝律令    | 701年に制定された大宝律令は、国家の基本となる法律であり、天皇を頂点とする中央政府と、その下に置かれる地方行政の組織や規則を定めました。これにより、戸籍の作成や租税の徴収、官僚の組織などが体系化され、律令国家としての体制が強化されたものとなりました。                  |
| 問10 | 答え<br>口分田     | 口分田（くぶんでん）は、戸籍に基づき、6歳以上のすべての人々に政府が支給した耕作地です。農民はこの田から上がる収穫に対して税（租）を納める義務がありました。しかし、奈良時代に入ると人口が増加したため、国家が支給できる田が足りなくなり、新たな開墾が進められる要因となりました。       |
| 問11 | 答え<br>平城京     | 平城京は、710年に元明天皇によって奈良の地に建設された都です。唐の都である長安をモデルにして設計され、天皇を中心とした政治体制を整えるための国家の拠点となりました。計画的に道路が配置され、貴族の邸宅や立派な寺院が立ち並び、当時としては非常に高いレベルの都市機能を持っていました。    |
| 問12 | 答え<br>聖武天皇    | 聖武天皇は、各地に国分寺を建て、東大寺には大仏を造立しました。彼の没後、光明皇后がその冥福を祈り、愛用していた多くの品々を東大寺に奉納したものが、現在の正倉院の宝物となっています。                                                      |
| 問13 | 答え<br>遣唐使     | 遣唐使は、7世紀から9世紀にかけて、日本が唐へ派遣した公式の使節団です。留学生や学問僧らが同行し、唐の政治制度、仏教、建築、美術、音楽など、多岐にわたる先進的な知識を日本に持ち帰りました。これらは当時の日本社会を急速に発展させる原動力となりました。                    |
| 問14 | 答え<br>班田収授法   | 班田収授法は、6歳以上の男女に口分田という田地を貸し与え、その人が亡くなれば国に返させる制度です。この田地から収穫された米の一部が税として国家に納められました。                                                                |
| 問15 | 答え<br>沿岸警備    | 防人は、律令制における国防の要として、特に重要視された九州北部の防衛を任されました。農民の中から徴兵されて派遣されましたが、任期は長く、遠い故郷を離れて厳しい監視活動を行わなければなりません。彼らの任務は国の平穏を守るための最前線でした。                         |
| 問16 | 答え<br>国司      | 国司は、中央政府の意向を地方へ伝え、郡司を管理することで徴税や戸籍管理を行いました。郡司の実務を監視し、定期的に中央へ報告する義務がありました。                                                                        |
| 問17 | 答え<br>元明天皇    | 第43代天皇で、710年の平城京遷都を実行しました。また、国家の歴史や伝承をまとめるために、太安万侶らに『古事記』の編纂を命じ、各地の地理や産物を記録する『風土記』の作成を命じました。国力を充実させ、安定した統治を目指した人物です。                            |
| 問18 | 答え<br>荘園      | こうして形成された私有地が荘園です。有力者は税を逃れるために土地を荘園として確保し、支配力を強めました。これにより、天皇を中心として全国の土地と民を直接支配する「公地公民」の制度が維持できなくなりました。                                          |
| 問19 | 答え<br>校倉造     | 校倉造は、断面が三角形の木材を井桁（いげた）に組んで壁を作る工法です。湿気が多いときは木材が膨らんで隙間をふさぎ、乾燥すると木材が縮んで風を通すという、自然の作用を利用した高い調湿機能を備えています。                                            |
| 問20 | 答え<br>東大寺の大仏  | 「東大寺の大仏」は、鎮護国家の精神を象徴する巨大な銅像です。完成には膨大な費用と人員が必要であり、聖武天皇は人望の厚い僧・行基に協力を仰ぎました。多くの民衆や貴族が造営に関わり、ようやく完成しました。                                            |
| 問21 | 答え<br>6歳以上    | 戸籍（庚午年籍など）を6年ごとに作り直し、6歳以上の男女に対して、身分や性別に応じた広さの口分田を貸し出しました。この制度により、政府は確実な徴税を目指しました。                                                               |
| 問22 | 答え<br>律令国家    | 律令国家では、公地公民の原則に基づき、戸籍を作成して人々に税を課しました。中央では二官八省が行政を担い、地方では国司と郡司が行政の実務を行うシステムが構築されました。                                                             |
| 問23 | 答え<br>国司      | 国司は、その土地の税の徴収や戸籍の管理、裁判など、地方行政全般を担いました。任期を定めて中央から派遣することで、地方での権力固着を防ぐ仕組みとなっていました。                                                                 |